

# 浅口市令和6年度 全国学力・学習状況調査の概要

令和6年10月

浅口市教育委員会学校教育課

## 【調査概要】

○浅口市内7小学校6年生児童249人、3中学校3年生生徒240人参加（R6/4/18実施）

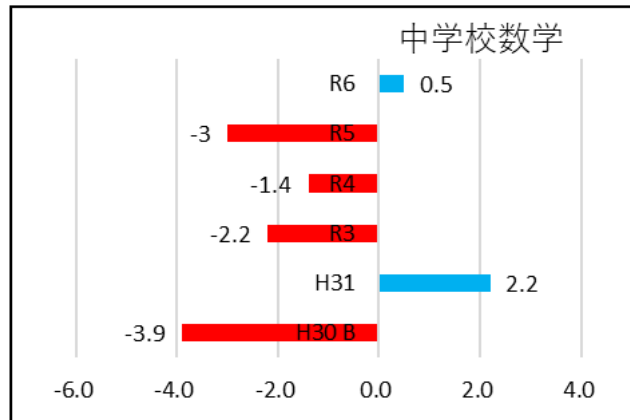
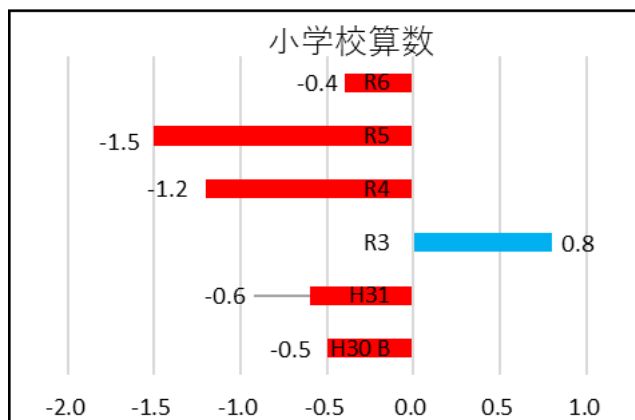
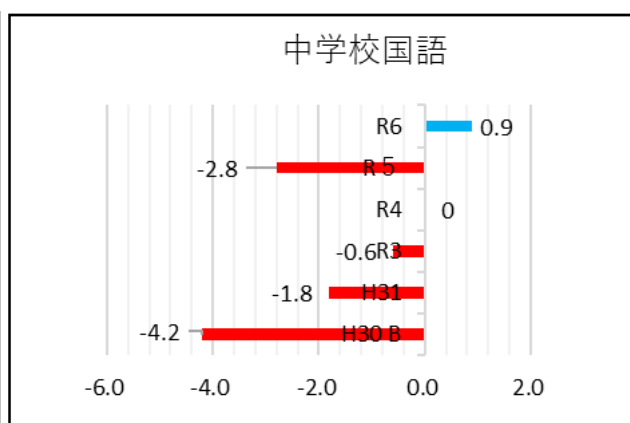
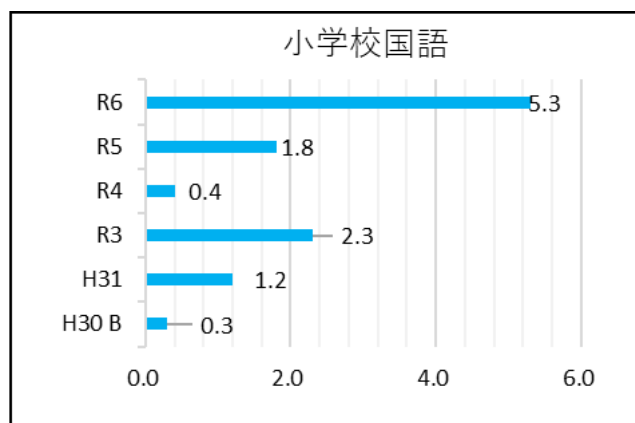
## 【学力調査の結果概要】

○平均正答率

|     |     | 国語   | 算数   |     |     | 国語   | 数学   |
|-----|-----|------|------|-----|-----|------|------|
| 小学校 | 浅口市 | 73.0 | 63.0 | 中学校 | 浅口市 | 59.0 | 53.0 |
|     | 岡山県 | 68.0 | 62.0 |     | 岡山県 | 59.0 | 53.0 |
|     | 全国  | 67.7 | 63.4 |     | 全国  | 58.1 | 52.5 |

○経年変化（浅口市の平均正答率と全国平均正答率との差）

※R2年度は実施なし



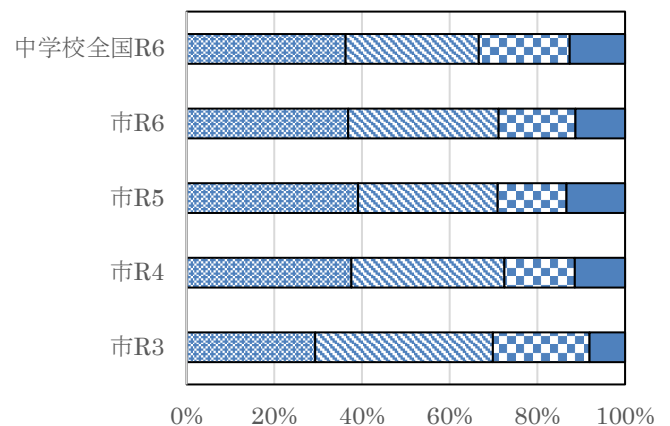
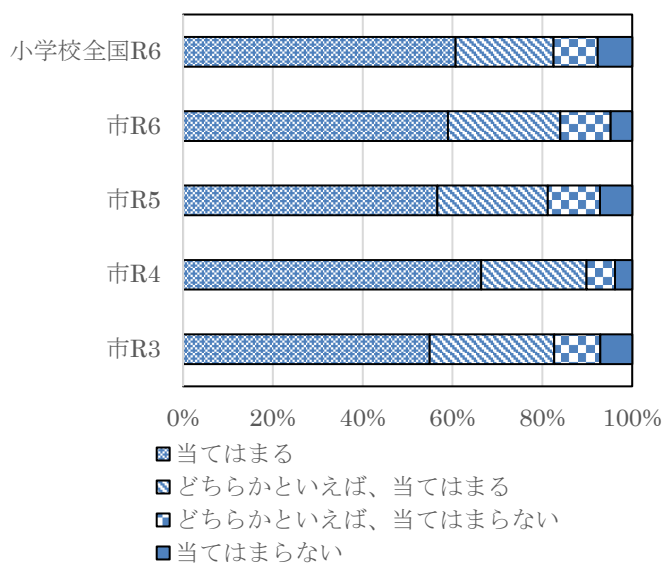
- 浅口市の平均正答率を全国平均と比較すると、小学校では、国語科で5.3pt上回り、算数科で0.4pt下回った。国語科では基本の徹底や授業改善の成果が大きく表れている。算数科においては、昨年度の1.5ptマイナスから改善が見られるなど基礎学力の定着が進みつつある。
- 中学校では、国語科で0.9pt、数学で0.5pt上回った。2教科ともに全国平均を上回り、昨年度からの基礎学力の定着に向けた取組が成果を出している。

- ⇒ 学力全体を包括した授業改善や家庭学習習慣の定着などに、地道に、継続的に取り組んできた結果であると考えられる。また、小中一貫教育校ごとに弱みや強みを共有し、足並みをそろえた教育活動を行ったことで、より系統的に行ったことが今回の結果につながった。
- ⇒ 児童生徒に力がついていることを的確に伝え、取組のよさを価値付けると共に、個別の問題レベルで課題を明らかにし、習得が不十分な内容についての学び直しが必要である。
- ⇒ 平均正答率が低い児童生徒への補充学習に力を入れるとともに、全体的なベースアップに向けて取組を工夫する必要がある。（朝学習・放課後学習等）

#### 【学習状況調査の結果概要】

##### ①将来の夢や希望について

将来の夢や目標をもっていますか

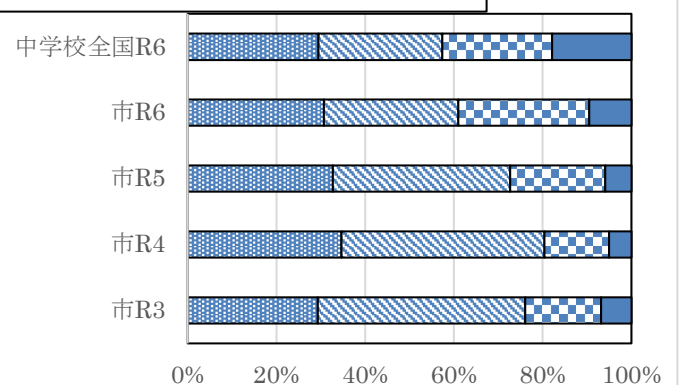
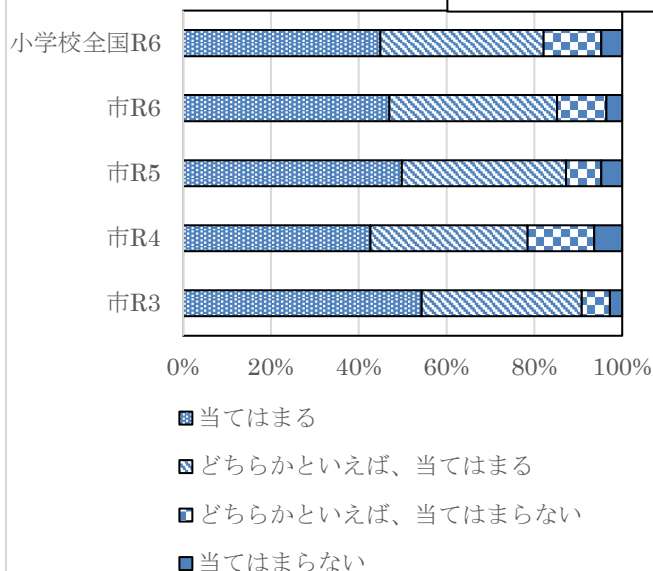


- 肯定的な回答をした児童生徒の割合は全国平均とほぼ同程度である。年齢が上がるにつれ、夢や希望がもちにくい状況になっている。

⇒小中一貫教育とCS（コミュニティ・スクール）での地域の方々との交流の推進

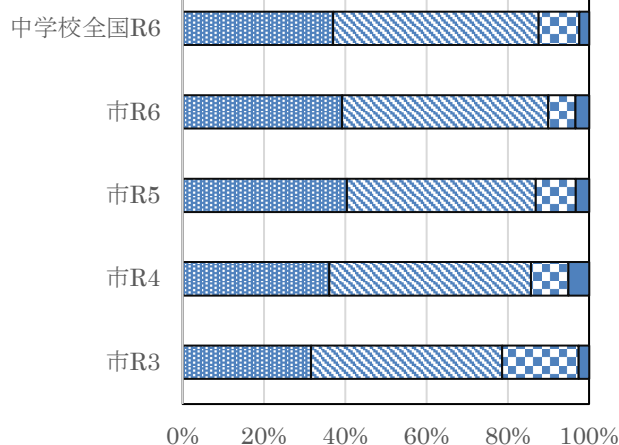
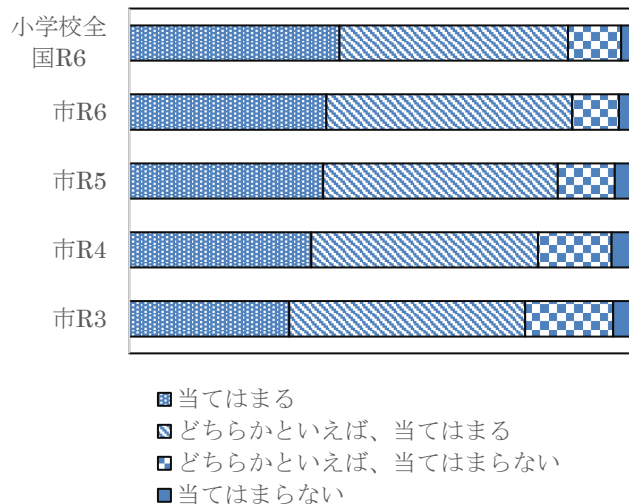
##### ②授業について

算数・数学の授業内容はよく分かりますか



- 「算数・数学の授業がよく分かりますか」について、小学校では肯定的な回答が80%を超える結果となった。中学校は、学習する内容が難しくなることもあり、小学校と比べると肯定的な回答が減少しているが小中学校ともに肯定的な回答が全国平均を上回っている。  
⇒補充学習（放課後学習・朝学習）の効果的な実施  
⇒小中一貫教育校での9年間を見据えた特色ある教育活動の実践

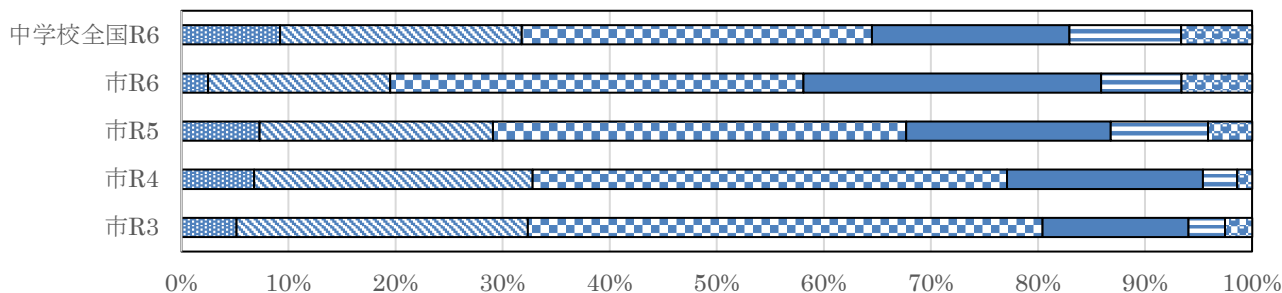
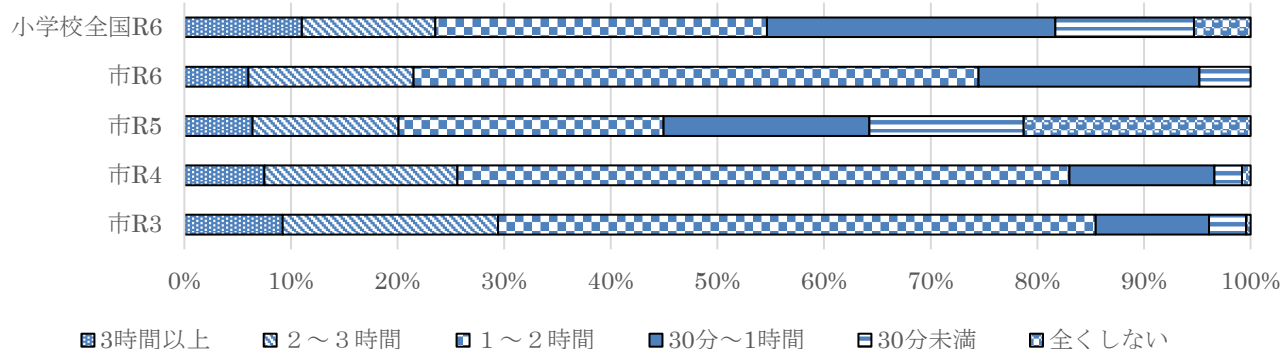
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



- 小中学校ともに肯定的な回答が全国平均を上回った。引き続き、協働的な学習の推進を行っていく。  
⇒児童生徒に学びを委ねる授業の実践

### ③家庭学習について

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。



- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強している」について、1時間以上の割合が小学校では全国平均と比べて大幅に上回っている。その結果が学力調査にも表れている。

中学校では、1時間以上の割合が全国平均よりやや下回っている。学力調査では、全国平均を国語数学ともに上回っていることから、効率的な学習習慣が定着しつつある。

⇒タブレット端末を活用し、学校教育と家庭学習の連動

⇒復習や予習の推進

## ● 【市教育委員会の今後の取組】

### ～キラリと光る未来プロジェクトの推進～

#### □「良質な関わり合い」に焦点を当てた保育・授業改善、家庭学習・補充学習等の質的充実による学力の向上

- 資質・能力の育成に焦点をあてた指導の充実。
- 1人1台端末の活用による個別最適な学びや協働的な学びの推進。
- 校内研等を活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりへ指導の充実。
- 学習支援員（小・中学校）を効果的に活用し、定期的な補充学習の機会の保障。

#### □「子どもたちの主体的な活動、家庭や地域との連携」に焦点を当てた基本的な生活習慣の向上

- 各校の実践の再構築のための情報共有。
- コミュニティ・スクールを推進し、地域の力を生活習慣の向上の取組に生かす。

#### □「系統的・継続的な教育」に焦点をあてた小中一貫教育の推進

- 学習指導要領に基づく9年間のカリキュラムを編成し、小学校と中学校の滑らかな接続を図る。
- それぞれの小中一貫教育校で特色ある教育活動の実践
- 中学校教員による小学校への乗り入れ授業の実施
- 小中一貫教育校において目指す子ども像を共有し、教職員が一体となって子どもたちの「生きる力」の育成を図る。
- お互いの良さを見付け、伝え合う活動の継続。
- 「あさくち未来学」（社会に開かれた教育課程）の実践
- 理科教育の充実（岡山天文博物館との連携）

